

迷える坊守

(ぼうもり)たち

北米開教監督部
長 良子

皆様はお寺とご縁をいただく前まで、仏教にどのようなイメージをお持ちでしたか？

日本の僧侶の多くは寺院で生まれ育った人たち(寺族じぞく)ですが、私自身はお寺出身ではないので本山に就職するまでは、学校で習った基礎知識や大衆映画や本などに登場する仏教のイメージをそのまま持っていました。「輪廻転生」「カルマ」というのは因果応報の教えである。「お坊さんは悟っている人かあるいは修行中の人だろう」などです。世界の多くの人々は仏教にこのようなイメージを抱いているのではないのでしょうか。インターネットですぐ

に答えを検索できる時代を生きる私たちは、長い時間をかけてこの身で体験し理解していくという方法よりも、すぐに答えを教えて欲しい、すぐに理解したい、すぐに悩みを解決したいと望んでいるのではないのでしょうか。仏教の話を聴くときでも「僧侶は何らかの答え、悟りを持っていて素晴らしい人のはずだ。その悟りを説明してもらって早く自分も真理を獲得したい」などと思いませんか。僧侶は何らかの答え、悟りを持っていて素晴らしい人のはずだ。その悟りを説明してもらって早く自分も真理を獲得したい」などと思いませんか。僧侶は何らかの答え、悟りを持っていて素晴らしい人のはずだ。その悟りを説明してもらって早く自分も真理を獲得したい」などと思いませんか。

実に今まで出会わなかったのかと手に汗を握るほどの興奮をしました。皆さんは今までに、仏教を高貴で目に見えない聖的なものに見立て憧れとともに少々遠慮をするような気持ちを持ったことはありませんか？僧侶は聖なる人で、お寺も聖なる場所だと思っておられませんか。日本以外のアジアの僧侶の多くは、文字通り家から出て宗教施設で生活し結婚が許されていません。アメリカにある韓国や台湾の寺院の僧侶も独身で寺院に住んでいます。それにひきかえ日本の仏教の多くの僧侶は、寺の一部に居住空間を作り家族と生活をしています。さて八月末、ここロサンゼルスで開催された世界同朋大会ではお寺の「過去・現在・未来」をテーマにし、それぞれの発表がありました。現在の部の発表では、アメリカ国内で活躍する若手の真宗研究者を招待し研究

内容を紹介してもらいました。その中の一人スタリリン・ジェシカ博士は、仏教における女性の生活や活動に興味を持ち、大谷派寺院の住職の配偶者(坊守)ぼうもりー現在は女性住職がいますので男性の坊守もいます)の現地調査をされました。この世界同朋大会には日本から多くの坊守の方々が参加されていたので、博士との会話も弾んだようでした。世界の宗教という視点を持たず、坊守の存在を当たり前のことにしていた私は(2ページに続く)

行事予定

十二月

- 十八日 別院大掃除
 - 二十七日 餅つき
 - 三十一日 除夜会法要
- 一月
- 一日 修正会
 - 二・三日 別院休み
 - 八日 祥月法要

同朋のお悔み

矢掛ベティー信子様
十月七日御命終
(98)
謹んで哀悼の意を表します。

年末年始行事

除夜の勤行

年越しそば・除夜の鐘
12月31日 午後6時半

修正会

1月1日 午前10時

1月祥月法要

1月8日 午前10時

永代経法要

総会・新年会
1月29日 午前10時

「(1ページからの続き
「迷える坊守たち」)



考えたこともなかったのですが、スターリン博士は日本仏教の独自性として、浄土真宗の寺院には「坊守」という存在があり、坊守は子育てや門徒さんの接待、お寺の清掃、お斎の準備片付けなどといった家庭の仕事とお寺の仕事が混ざり合った活動を宗教施設の中でしていて「アメリカの宗教学者達も、宗教のことと世俗のことは実は混じり合っているという考えられるようになってきた」と指摘してくださいまし

た。そして仏教僧侶の生き方の中には、出家(家から出て)だけでなく、救済が必要とされていく家庭をはじめとした世俗の中にこそ教化活動の場があると、あえて出家をしない僧侶の生き方があると聞かれました。

さらに十月に南カリフォルニア大学で行われたスターリン博士の講演会では、坊守の存在やその生活、迷い、悩みについて話をされ、アメリカ人の聞き手は坊守に親近感を覚え興味を惹かれたようでした。

私は本山で仕事をしていた時、坊守委員会の事務局に関わり研修会などで若い坊守の方々の意見を聞くご縁をいただきました。「結婚した相手はまたまお寺の人だっただけで必然的にお寺の仕事をするようになった。個人と結婚しなかっただけでお寺と結婚しなかったわけではない」「歴史のあるお寺を守るとい

う重圧」「真宗のことがまだ分からないのに信仰心を期待されている気がする」など。特にお寺で育っていない女性がお寺の跡取りと結婚した場合には、親戚や門徒からお寺での働きを期待され大変な苦勞をされています。日本では婚姻は家と家との結びつきとして親が結婚相手を決めるのが普通でした。それが戦後になって自由恋愛による結婚が始まり、それでも寺院ではお見合いが多かったのですが、ここ二十年くらいは私の周りでもても寺族の恋愛結婚が非常に多くなつたと感じます。結婚と同時にお寺に入る妻もいますが、新婚の間は二人だけの生活を許されていた夫婦であっても、五年、十年経ちますと、住職である夫の父親が年をとり住職の交代やお寺の仕事を一緒にするためお寺に住んで欲しいということがおこってきます。お寺で生まれ育った夫は実家に戻る訳だ

からまだいいが、妻は今までのような生活はできなくなり、舅姑との同居、寺院での仕事に慣れようと頑張っているものの、期待に比べられない、状況を楽しめないという悩みが起きます。結婚後も仕事を続ける女性が増えた中で坊守としての役目を果たすために仕事を辞めるべきか悩む人もいます。本山や教区での若坊守研修会では普段誰とも共有できなかったような悩みを他の若坊守と語り合い、共に仏法を聴き、真宗の教えが自分に向いているのか、何が願われているのか、何故お寺を守るのかを考えたいと思います。

先ほど申しました南カリフォルニア大学の博士の講義では、聞き手のアメリカ人は、日本の坊守の生活を聞くことによつて、それまで持っていた仏教の先入観が崩され真宗の教えにも触れているようでした。「仏教の僧侶は悟りを持っていて素

晴らしい人のはずだ。」というイメージに対して、浄土真宗の僧侶や坊守(僧侶でない人もいます)は、寺院の場で家庭生活を営み、悩みながら仏法を聞き続けているのです。

それは、往生への道を歩んでいると言えるでしょう。

多くの日本人は「往生」という言葉はお浄土に生まれることであるから単純に「死ぬこと」であると思つています。しかし親鸞聖人は、死ぬことというより、生きていく私たちが、たつた今、如来のはたらきを受け入れることによりお浄土に生まれることが定まるのだと言われています。それは、弥陀如来にお任せするという方向性がはつきりとしその道を生きていくことです。

親鸞聖人のかかれた末灯抄に次のようなことがありますが、「真実信心の行人は、撰取不捨故

(2ページからの続き
「迷える坊守たち」)

に正定聚の位に住す。この故に、臨終を待つことなし。来迎を頼むことなし。信心の定まる時、往生また、定まるなり。「如来のはたらきにより信心を得て念仏する人は今この人生において、必ず仏に成るべき身、正定聚(しようじょうじゆ)となり、信心が定まった時に、この命終わつた時には浄土に生まれるということも定まるのだ。

鈴木大拙は「行」を The true living of the pure land 「浄土真実の生活」と訳し、さとの「証」を The true realizing of the pure land 「浄土を実現する」と訳されました。真宗には苦行や座禅のような「修行」はありませんが、教えを自分の人生において実践することが行であります。教えを実践することがなければ教えは対象であり自分の一部になりません。他人事で

なく、自分自身の生活がすなわち往生への道の歩みが「行」であります。「浄土」「ざとり」は目に見えませんが、その「ざとり」を苦心して表現したものが、お経でありお寺のお荘厳であり僧侶の法話といえるでしょう。そして、聖なるものとして私たちが畏怖し憧れている存在が仏さまなのでなく、この凡夫の私に働きかけてくれるのはたらきこそが「仏」なのでしょう。「聖」を蓮の花として喩えて「俗」を蓮の根の生えている泥土とするならば「仏の教え」は聖と俗に分けられない蓮の花のようなものです。往生への歩みは、浄土とこの現実の世界(穢土)の混じり合うところにあります。そして、「聖」と「俗」が混じり合うところによって、仏の願いとはたらきによってお浄土が実現されるのです。お浄土の話

を聞き、仏の願いを意識して生きることは、自分

の力で生きているのではなく、生かされて生きていくということに気づくということです。

私たちが真宗門徒は、坊守に限らず、時には家庭や職場の中(俗)で迷いますが、でも一生をかけて仏教を聞き続け、浄土を自分とかけ離れたものでなく、何代にも渡るとくさんの師の人生を経て、教えがこの自分の身に伝わったという歴史の事実には浄土を見ているのでありましよう。

また、講演の中でスターリン博士は真宗大谷派の坊守のグループによる教化活動を紹介しました。ハンセン病患者や被差別部落問題の学習や支援活動をする坊守たちです。

なぜ坊守がこういう問題に関わろうと思つたのでしょうか。浄土真宗の歴史の中で有名な女性といえば、親鸞聖人の妻の恵信尼公と娘の覚信尼公ですがお二人とも親鸞聖人を支え、教えを聞いて

てきた人として門徒から敬われています。その一方、平等の教えである浄土真宗においてもその教えを聞く僧侶や門徒の中では女性差別がありません。女性坊守は差別される者としてこれらの問題に共感ができたのではな

いでしょうか。東本願寺の歴史において、ハンセン病患者や被差別部落の人々に親鸞聖人の言われていないことをあたかも聖人の教えとして語ってしまったという歴史があります。博士は宗派の声明文やホームページをスクリーンに映し、坊守たちはこの教団の一員としてその責任を背負い宗祖親鸞聖人の教えに生きるものとしての使命を明らかにしたいのだ、ということをお聞きしました。こうして、坊守をつき動かす根拠となるものが真宗の教地調査による研究発表として示し、このような手法でアメリカ人に真宗の

教えが伝わったことにたいして私は感動しました。

浄土真宗の道は、私たちが凡夫としての自覚を持ち「聖」と「俗」を躊躇いながらも歩むことを許しています。仏教にインスタントな「悟り」を求める大衆的な先入観を持った現代人にとつては、実は坊守の或いは全ての真宗門徒のこの躊躇いや迷いこそが、インスタントに人間として共感でき、真宗が自分とかけ離れた教理ではなく現実味をもった教えとなつて響いてくるのではないのでしょうか。真宗門徒の往生への道そのものが、この現代社会においてあらゆる人々に真宗の教えが開かれていく有効な入り口であると感じました。



別院ニュース

除夜会

二〇一六年も残すところあと僅かとなりまして。今年も除夜会で皆さんとともに過ぎ行く年を静かに振り返りながら、新しい年を迎える準備をしたいと思えます。除夜会は十二月三十一日、午後六時半よりお勤めいたします。おいしい年越しそばも用意して皆さんをお待ちしておりますので、ご家族、友人の方々をお誘い合わせの上、是非お参りください。



報恩講厳修

別院では去る十一月二日、一日の両日に渡って報恩講が厳修されました。親鸞聖人のご命日は十一月二十八日です。親鸞聖人のご命日をご縁にお勤めされるこの報恩講は浄土真宗門徒にとつて最も大切な法要であり、昔から浄土真宗のお寺の暦は報恩講で一年が始まり、報恩講で一年が終わるといわれていたほどもです。報恩講は仏法に出遇い得たことを喜び感謝しつつ、私たちがひとりひとりが仏法に立って生きていくかを改めて見直すための大切な御縁といえます。土曜日の夕方にABA主催のもと行われた報恩講の集いでは、お勤め後、山田ケン開教使からご法話を聴聞しました。その後参加者と一緒に夕食をいただき、続いて意見交換会が行われました。

翌日の日曜日は午前十時より報恩講法要が厳修されました。この報恩講のために大谷暢裕開教司教とさちか婦人が京都よりお越しになり、暢裕司教が導師をお勤めになりました。法要後は山田ケン開教使より英語のご法話、見義信香開教使より日本語のご法話を聴聞しました。法要後はお斎が振る舞われました。

お斎の準備をしてくださった当番二の皆さんにも大変お世話になりました。皆さまのおかげをもちまして今年も滞りなく報恩講をお迎えすることができました。ありがとうございました。

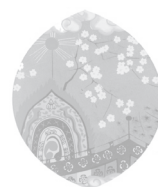
ダルマスクール

十月は子供たちが楽しみにしていたハロウィーンパーティーがありました。家族礼拝後のランチではホットドッグ、チリ、ナ

チョス、サラダそれとたくさんのお腹をいっぱい満たしました。今年も写真ブースが設けられ、大人も子どもも思い思いのポーズでとっておきの一枚を撮影しました。ゲームを楽しんだ後にはお待ちかねのトリック・オア・トリートです。どの子ども持ちきれないほどのお菓子をもらって大喜びでした。楽しいハロウィーンパーティーのお手伝いや後片付けをしてくれた皆さん、ありがとうございました。

十一月は「感謝」をテーマに日々の生活がたくさんの人やいのちに支えられてあることを確認する時間となりました。

二〇一六年も終わりに近づきましたが、餅つきや除夜会の年越しそばなどまだまだダルマスクールの子供達の元気いっぱいの姿を見ることができるといいでしょう。



永代経法要／教団総会
新年会のお知らせ

一月二九日(日) 午前十時より別院メンバーの全先亡者追悼法要として永代経法要をお勤めいたします。どなたさまもぜひお参りください。

また、法要に続きまして第百十二回教団総会、ならびに新年会が開催されます。参加費等詳細につきましては追ってお知らせ致します。たくさんのご参加をお待ちしております。

第十二回世界同朋 大会に寄せて

ウエストコペナ元開教使

細川好円
(新潟市)

日本から参加された百三十名の参加者のうちには懐かしい顔ぶれがあり再会を喜びました。元開教使の木越樹ご夫妻、三島好円（現在・細川）先生です。今月号では先月の木越樹先生に引き続き細川好円先生より、世界同朋大会の感想を記していただきました。

世界から多くの念仏仲間が集まったことは、素晴らしいことでした。今回の大会のトピックスは、浄土真宗の未来でした。が、各お寺の現状は、“お参りが少ない”若者が来ない”“お寺をどのように維持していったらいいのかわからない”という悲観的

な意見が多く出ました。しかし、反面、世界での仏教徒まではいかないにしても、仏教の考えを自分の人生の道しるべとしている人たちが増えてる事は確かです。仏教は、神学ではなくて人間学です。神や超越者と自分との関係の解明ではなく、仏智に照らして自分自身を知るといいう「自己洞察」の教えです。今、世界は人間の欲望と欲望が戦っています。その中から見えてくるものは、欲望の何たるを学ばない限り戦いは終わらないということなのです。世界は欲望に疲れて来ています。だから、今からです。鈴木大拙・ダライマラを縁として仏教の教えが広まっていくのは。神学では解決できないのです。煩惱を抱えた人間とは何か？という人間学を教える仏教が今から大展開していきます。静かに確かに、親鸞聖人の教えを学

んでいきましよう。必ず尋ねられるだろう「who is Shinran? What did he do?」「Why do you chant Buddha's name?」に答えるために。
合掌



修正会

修正会は新年最初の法要です。ご存知のように昔から日本では初詣といつて元旦にお寺や神社にお参りする伝統があります。元旦午前十時の修正会にどうぞお参りくださ

い。法要の後はお屠蘇とお雑煮をご用意してお待ちしております。お正月は別院に集まって年始の挨拶を交わしましょう。

ルンビニだより

師走を迎えて改めて今年一年を振り返ってみますと、今年もルンビニ保育園では様々な教育プログラムを通して子どもたちの可能性を最大限に引き出す努力を行ってまいりました。それと同時に、今年も子供たちの楽しい思い出づくりのお手伝いのできたのではないかと思います。今年一年お世話になりました先生方、スタッフの皆さまをはじめ、ご両親やご家族、そして別院の方々にこの場をお借りして心より感謝申し上げます。来年も子供たちに豊かな学びの場をさらに提供していきますと思っております。引き続き皆さまの

ご理解、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。十二月十六日（金）には年末ホリデー・プログラムが行われます。子供たちはこの日に向けて一生懸命練習を重ねています。ご期待ください。今年最後の保育園の行事は十二月二十七日（月）午前十時よりおこなわれるもちつきです。どなた様もご家族お揃いで是非ご参加ください。つきたてのおもちを一緒に楽しみませんか。ルンビニ保育園は十二月二十六日、一月二日を休園日とさせていただきます。ルンビニ保育園では園児を随時募集しています。二歳半から六歳までのお子さんが対象です。詳細につきましてはルンビニ保育園事務所（21368012976）までお問い合わせください。